

研究課題名	広島臨床腫瘍外科研究グループ（Hiroshima Surgical study group of Clinical Oncology: HiSCO）による胆のう摘出術共通データベース事業
研究期間	実施許可日 ～ 2052年12月（半永久的に継続予定）
研究の対象	2000年1月から2051年12月の間に広島大学病院消化器外科および共同研究機関にて急性胆嚢炎の治療を受けられた患者さんを対象とします。
研究の目的・方法	<p>研究目的：急性胆嚢炎を含む胆道疾患に対する治療は、重症度に応じて治療法が異なります。しかし、よりよい予後を得るために指摘治療方針は未だ不明な点が多く、さらに検討が必要です。今回、広島臨床腫瘍外科研究グループ（Hiroshima Surgical study group of Clinical Oncology: HiSCO）で大規模データを収集・解析することでより良い治療法を検討するため、この研究を計画しました。</p> <p>研究の方法：本研究は、各機関において、誰のものか分からないように加工したカルテ情報を、HiSCOが運営するデータベースに登録し、将来新たに計画・実施される研究のためのデータベースとしてHiSCO事務局が管理します。データベースのアクセスは本研究の担当者のみアクセス可能です。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>カルテから転記する内容は身長、体重、性別、血液検査、術前CT所見、予後等</p> <p>試料・情報の管理責任者 広島大学病院 消化器外科・移植外科 教授 大段秀樹です。</p>
外部への試料・情報の提供	広島臨床腫瘍外科学グループ（HiSCO）へのデータ提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態でWEBシステムを用いて行います。
利用または提供を開始する予定日	当院における実施許可日（2023年9月11日）
個人情報の保護	試料・情報を提供する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないよう加工した上で提供します。個人と連結させるための対応表は、本院の研究責任者が保管・管理し、外部へ提供することはありません。
研究組織	<p>当院の研究責任者 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター 外科 医長 尾上 隆司 研究機関の長 繁田 正信</p> <p>研究代表機関 広島大学病院 消化器外科・移植外科 教授 大段秀樹</p>

